

# 子どもの確かな人権意識を育てる学習について

## ーホームルームでの活動を通して人権感覚を豊かにー

奈良県立五條高等学校 教諭 小野 澤 孝 夫

Onozawa Takao

### 要 旨

様々な地域から集まり同じクラスの中で生活する高校1年生。ホームルーム活動や学校行事に主体的に参加できるような取組を行ったことで、生徒のクラスでの有用感や自尊感情が高まった。

キーワード： クラスでの有用感、自尊感情、ホームルーム活動、学校行事

## 1 はじめに

クラスの約半数を占める地元出身の生徒と市外からやってきた生徒、そして小規模校出身で顔見知りがおらず不安を抱く生徒。彼らが、お互いを認め合い、よりよい人間関係をつくるためにはどうすればいいか。「人権教育は、あらゆる学校教育活動の中に根ざすものでなければならない。」という理念に基づき、ホームルーム活動や学校行事を含めた日々の教育活動を通しての取組ができないかと考えた。

## 2 研究目的

クラスにおいて生徒たちが常にコミュニケーションを取りながら、主体的にホームルーム活動や学校行事に参加することができれば、生徒一人一人のクラスでの有用感を高めることができると考えた。そして、自尊感情を高め、お互いを認め合える集団・一人一人が自己実現に向けて努力する集団へと高めることができるのではないかと考えた。

## 3 研究方法

ホームルームでの取組や学校行事を通して、生徒がクラスでの有用感を高め自尊感情を高められたかを検証する。その手段は、以下の通りである。

○生徒の意識把握のためのアンケートを1学期末、2学期末に行う。

○ホームルームでの生徒の感想などを検証する。

## 4 研究内容

### (1) 研究の手順

次のような取組を日常的に進める。

○生徒たちの意見や思いを、プリントや掲示物を用いてクラス全体に紹介する。

○生徒たちが主体的にホームルーム活動や学校行事に参加できるような取組を行う。

○一人一人の悩みや不安をクラス全体で共有できるようにする。

その結果を以下の通り評価する。

○アンケートによる生徒の意識調査とその分析

○一人一人の生徒の観察

## (2) 入学時の生徒の状況

### ア 入学時に提出された課題作文「高校生活スタートにあたって」から

「豊かで楽しい高校生活にしたいです。」「勉強と部活をうまく両立させるように頑張りたいと思います。」と高校生活への期待を書いた生徒、「将来は〇〇〇になりたい。」と将来の夢を書く生徒が多い。一方、「積極的に話しかけて、人見知りや内気な性格ではないようにしたい。」「自分の素の性格を出していけるか心配。」と人間関係への不安を書く生徒が数人おり、小・中学校でのいじめの経験を書く生徒もいた。

### イ 二者懇談から

市内の中学校出身の生徒は入学前から人間関係が固まっている一方で、市外出身、中でも同じ中学校の出身者がクラスに1人もいない生徒が、そのことに違和感を感じており、友人関係に不安をもっている生徒が11人、そのうち中学校でトラブルのあった生徒が2人いることが分かった。

そこで生徒たちがクラスで存在を認められ、楽しく過ごせる取組をすすめていった。

## (3) 1学期の取組

### ア ホームルーム活動や学校行事を通して

行事についてのホームルームでは、全て生徒たちが進行し、内容を決定するようにした。校外学習については、五條市外へ電車で行き、バーベキューをすることにした。球技大会については、体育委員が中心になって話し合った。希望が重なったり、人数が足りない種目があったりして、体育委員が困る場面もあったが、自分たちで解決し、各種目のメンバーを決めた。そして、生徒たちは、いずれの学校行事でも生き生きと活動していた。

### イ 人権教育ホームルームを通して

「わたしにできること」紹介というテーマで、自尊感情を高めるためのワークショップを行った。グループ内で各自が自分のできることを紹介し、それを聞いたグループのメンバーが各人の「私のできること一押し」を決定してクラス全体で報告するという展開である。特に、無口で目立たず友人関係に不安をもっていた生徒のことを、同じグループの生徒が肯定的に紹介するなど、お互いを認め合い、自尊感情を高められる機会となった。また、生徒たちはそれぞれに、今まで気付けなかった自分のよさに気付くことができたようである。

### 生徒の感想（抜粋）

- ・みんなそれぞれいいところがあって仲良くなれたし、楽しかったです。うるさい「〇〇ちゃん」、かわいい「〇〇〇」、クールな「〇〇〇〇」、無口な「〇〇〇」、人見知りな「〇〇〇〇」、みんな「〇〇」の友達です。
- ・みんないろいろできるんですネ。個性でてる！
- ・人それぞれできることがある。
- ・みんな意外なことができてすごいなあと思いました。これからももっと仲良くなって、良いところを見つけていきたいと思います。
- ・もっと重なるかと思ったけど、一人一人全然違う意見が出て、個性があって良かったと思います。

- ・みんなスゴイで一す。
- ・みんないろいろなことができるのに、自分は本当に何もできることがなくて、情けないな一と思いました。
- ・あまりしゃべったことのない子のいいところが知れて良かったです。

後日「みんないろいろなことができるのに、自分は本当に何もできることがなくて、情けないな一と思いました。」という感想を全体に紹介し、「この生徒はできることがなくてダメなのかな。」と問いかけたところ、「そんなことはない。この奥ゆかしいところがこの人の良いところだ。」というような意見が数人から出された。お互いを認め合うことができているのだと、今回のホームルームの意義を再確認できた。

ホームルーム後に配布した生徒の報告のまとめ（抜粋）

#### **1年Dルーム みんなのできること**

- A** さんのできるとは **友だちと仲良く**できること
- B** さんのできるとは **友だちとずっと話せる**こと
- C** さんのできるとは **韓国語の曲**を何曲か歌えること
- D** さんのできるとは **剣道**ができること
- E** さんのできるとは **どこでも寝る**ことができること
- F** さんのできるとは **バスケ**ができること
- G** さんのできるとは **ゲーム**が上手にできること
- H** さんのできるとは **お菓子**が作れること
- I** さんのできるとは **いつでも寝られる**こと
- J** さんのできるとは **楽器**が吹けること
- K** さんのできるとは **パズル**が得意なこと
- L** さんのできるとは **嵐の話**をずっとできる **卵**も割れること
- M** さんのできるとは **クロール**で泳ぐ **目玉焼き**も得意なこと
- N** さんのできるとは **歌**を歌うこと **楽器**も色々できるらしいこと
- O** さんのできるとは **HY**について語れる **弁当**も自分で作れること
- P** さんのできるとは **親の手助け**ができること
- Q** さんのできるとは **おばあさんに親切**にできる **ソフトテニス**もできること
- R** さんのできるとは **すごいサーフ**ができる **ギター**もできるらしいこと
- S** さんのできるとは **バスケ**ができること
- T** さんのできるとは **動物**を大切にできること
- U** さんのできるとは **物作り**がうまい **ゲーマー**でもあること

#### ウ 総合的な学習の時間「創造」発表会を通して

「五條・奈良県南部」についてグループでテーマを決めて調べたり、聞き取りをしたりして、クラスでの発表会をもち、生徒たちで運営・進行し、班ごとに発表した。ほとんどの生徒が発表することができた。それまで、人前で発言する機会が少なく、また苦手意識をもっている者も多いと思われたが、クラスメイトが肯定的に聞いてくれたことにより、コミュニケーションの大切さや自尊感情に気付き、クラスでの有用感を感じる機会になったと考える。

#### エ その他日常の取組を通して

進路指導をテーマとした学年集会やホームルームで生徒が書いたワークなどをまとめ、クラス全体に紹介し掲示した。そうすることで、クラスの生徒たちそれぞれの意見を共有させたいという思いがあったからであり、様々な考えや思いをもっていることを伝え、その違いを認め合える集団になって欲しいと考えたからである。生徒たちに様々な夢や希望があることを感じさせる内容であった。

#### (4) 1学期末の意識調査の結果

アンケート「1学期を振り返って」を実施し、クラスでの自己の有用感を調査した（表1）。質問3「1年Dルームで良かった」について、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した生徒はおらず、このクラスに所属していることに満足感を示していることが分かった。しかし、質問1「私はクラスの中で役に立つことができた」や質問2「私はクラスのみんなから存在を認められていると感じる」について、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した生徒が数多くいることも分かり、今後に向けての課題となった。

表1 1学期を振り返って

質問1	私はクラスの中で役に立つことができた。	平均2.45
④	そう思う	3
③	だいたいそう思う	15
②	あまりそう思わない	16
①	そう思わない	4
質問2	私はクラスのみんなから存在を認められていると感じる。	平均2.74
④	そう思う	5
③	だいたいそう思う	21
②	あまりそう思わない	9
①	そう思わない	3
質問3	1年Dルームで良かった。	平均3.47
④	そう思う	18
③	だいたいそう思う	20
②	あまりそう思わない	0
①	そう思わない	0

## (5) 1学期の課題

1学期末に行った進路希望調査の結果、「進学希望であるが詳細未定」17人、「全く未定、あるいは未記入」7人であった。この動向は、学校での生活の様子や友人関係の在り方とは相関がないように思われる。入学当初の進路指導の集会で行ったワークでは「人生で実現させたいこと、叶えたい夢」「実現するためにどんな自分になっていけばよいか」などの項目に全員様々な夢や目標を書いているものの、夢を実現させる展望や3年後の進路に対する自信がないのかもしれない。

## (6) 2学期の取組

### ア ホームルーム活動や学校行事を通して

9月の文化祭では、教室のジオラマ作成に取り組んだ。文化祭ホについてのホームルームで、ある生徒が中学校の美術の教科書に載っている「身近な風景（ある日の教室）」という作品と同様のジオラマを作ろうと提案したのがきっかけである。どんな材料でどのように制作するか見当がつかなかったが、設計や制作などの役割分担を自分たちで行い、夏休み後半からクラス一丸となり取り組むことになった。大半の生徒が運動部などで毎日活動しており、放課後などの決まった時間に集まることができない中で、時間を作って作業に参加する生徒や様子を見に来る生徒が現れた。参加しない（できない）者への不満をもつ生徒もいたが、アンケート調査「文化祭・体育大会を終えて」の中で、参加できなかった生徒のほとんどが「協力できなかった、ごめんなさい。」と回答する結果を見て納得したようである。



図1 文化祭展示の教室ジオラマ

体育大会では、文化祭同様クラス旗や鉢巻き作りに多くの生徒が自主的に取り組んだ。1学期の球技大会に続いての優勝とはならなかったが、クラス一丸となり、声と足を合わせることでできた結果、「行進で学年1位になれたことが1番の満足だ。」という生徒もいた。

1年Dルーム 文化祭・体育大会を終えて（ ）内は記述例

○頑張ったこと

- ・自分の競技を頑張った<15人>  
（次の人にちょっとでも余裕ができるように必死で走った 棒登りの土台を頑張った  
リレー1位）
- ・模型・旗の制作等、準備を頑張った<11人>  
（部活と両立させて準備を頑張った みんなのためにミサングを作った はちまきに一人一人の名前をかいた）
- ・応援を頑張った<8人> （クラスみんなで応援できた）
- ・行進<4人> （行進の声出し 足を合わせるのを頑張った 1位になった）
- ・文化祭の当番を頑張った
- ・旗を振るのを頑張った

○うれしかったこと

- ・行進が学年で1位
- ・文化祭、あこがれの先輩がきてくれた

○感動したこと

- ・みんな一生懸命で一致団結していて感動<3人>

○楽しかったこと

- ・文化祭、友達と廻れた<3人>
- ・応援

○思ったこと

- ・Dルームは競技に出ている人の応援をみんなですべてやっていた、いいクラスだと思った

○できなかったこと

- ・はちまき作りや旗作りなど手伝いができなかった、協力できなかった、ごめんなさい、あまり役に立てなかった<11人>
- ・自分の競技で力を出せなかった、結果を出せなかった<6人>
- ・クラスで結果を出せなかった、賞とれなかった、優勝しなかった<5人>
- ・応援ができなかった<2人>
- ・当番忘れて少し後になった

○悔しかったこと

- ・こけてしまった
- ・競技で1位になれなかった

○むかついたこと

- ・全く準備に参加しなかった人に限って文句をつけたりしていた

○クラスとしての課題

- ・このまま仲良く、明るく、楽しく、元気に<13人>
- ・団結を深めて、一人一人のことを考えられるようにする<6人>
- ・元気すぎ、落ち着いているのも大事<3人>

- ・もう少し計画性をもって行動する<3人>
- ・やるときはやる、はじめをつけるべきだ<2人>
- ・お互い高めあえるようになる
- ・もっと男女で仲良くなる
- ・次は勝つ
- ・最初からあきらめるんじゃなく、やりきること
- ・もっとみんなで相談した方がいいと思います
- ・もっと全員が協力しないとイケない

アンケート結果では、「みんな一生懸命で一致団結していて感動。」「Dルームは競技に出ている人の応援をみんなでやっていて、いいクラスだと思った。」という意見が印象的であった。クラスの今後の方向性として、「このまま仲良く、明るく、楽しく、元気に。」「団結を深めて、一人一人のことを考えられるようにする。」などと回答する生徒が合わせて19人おり、これら行事において互いに思いやり協力したりすることを通して、クラスでの自己有用感や自尊感情を高めることにつながったのではないかと考える。

## イ 人権教育ホームルームを通して

### (7) 「わたしにできること」紹介Ⅱ

紹介ワークショップを、「高校に入ってからできるようになったこと」というテーマで展開した。自分について改めて気づき、クラスメイトについて改めて知ることによって自己肯定感を高め、互いを認め合うことの大切さを感じることを目的に、1学期と同様のワークショップを行った。今回は、その後高校生活を過ごす中で更にできるようになったことに気づき、それを紹介し合う内容である。1学期よりもスムーズにグループワークができ、クラス全体での発表も自分たちで司会を決めて、スムーズに展開できた。

ホームルーム後に配布した生徒の報告のまとめ（抜粋）

<b>1年Dルーム みんなのできるようになったこと</b>	
a	さんのできるようになったことは、 <b>ギター</b> がさらに弾けるようになったこと
b	さんのできるようになったことは、 <b>早起き</b> ができるようになったこと
c	さんのできるようになったことは、 <b>性格</b> がより <b>明るく</b> なったこと
d	さんのできるようになったことは、 <b>懸垂逆上がり</b> ができるようになったこと
e	さんのできるようになったことは、 <b>積極的</b> になったこと
f	さんのできるようになったことは、朝自分で <b>起きられる</b> ようになったこと
g	さんのできるようになったことは、朝間に合うように <b>起きることが</b> できるようになったこと
h	さんのできるようになったことは、 <b>お金の自己管理</b> ができるようになったこと
i	さんのできるようになったことは、中学校のときより <b>早起き</b> できるようになったこと
j	さんのできるようになったことは、 <b>楽譜を見ずにドラム</b> を叩くことができるようになったこと
k	さんのできるようになったことは、 <b>規則正しい生活</b> ができるようになったこと
l	さんのできるようになったことは、 <b>ラジオ体操第2</b> ができるようになったこと
m	さんのできるようになったことは、書道の授業のおかげで字を <b>丁寧に書く</b> ことができるようになったこと
n	さんのできるようになったことは、 <b>結婚できる年</b> になったこと
o	さんのできるようになったことは、 <b>人見知り</b> がちょっと <b>直った</b> こと
p	さんのできるようになったことは、いろんなこと <b>いっぱいしゃべれる</b> ようになったこと
q	さんのできるようになったことは、 <b>5時に勝手に起きられる</b> ようになったこと
r	さんのできるようになったことは、自分のことを <b>客観的に見られる</b> ようになったこと
s	さんのできるようになったことは、自分のことは <b>自分でできる</b> ようになったこと
t	さんのできるようになったことは、 <b>ポジティブ</b> になったこと
u	さんのできるようになったことは、 <b>敬語</b> が使えるようになったこと

ふだんはあまり話すことがないがたまたま同じグループになったクラスメイトが、意外なことに取り組んでいることに気付いたり、入学以来それぞれがクラスでの関わりの中でお互いに成長していることに改めて気付いたりすることができたのではないだろうか。

#### 生徒の感想（抜粋）

- ・それぞれが成長している中で、自分ももっと成長していきたいと思った。
- ・一人一人できるようになったことが違うのが面白いです。自分がまだできないことがたくさんあるのも見つかりました。クラスの皆ができるなら、自分もできるんじゃないかっていう自信もつきました。
- ・個性豊かなDルームでこれからもお互いに関わりあって、もっともっと成長していきたいと思いました。
- ・十人十色で人それぞれできるようになったことがあってすごいなと思った。今まで以上にDルームのことがスキになった。
- ・努力してできるようになった人がいっぱいいた。高校に入って継続する大切さを学べたと思う。
- ・すばらしい！みんなすごいなあ。私も頑張らなくちゃ。
- ・小さなことでも何か頑張っていることがみんなあるということが分かってよかったです。
- ・〇〇君の司会も楽しくて、ちゃんと進めてくれてよかったです。
- ・みんなが出来るようになったことは、いつかきっと社会に貢献する日が来ると思う。

#### (イ) 障害者問題について理解を深める

障害者問題についてのホームルームを2時間行った。ノーマライゼーションの理念を学び、障害者の視点から社会の在り方を考えること、そして、お互いの違いや多様性、また個性を認め合う社会を築くために、自分たちに何ができるかを考えさせることが目的である。

1時間目は校舎内外の施設のバリアフリーの現状を調べて出し合った。本校は、県内でも比較的新しい校舎であるため、点字ブロックやスロープが整備されており、手すりは至るところに設置されている。更に調べると、障害者用トイレが各階に設置されていることや自動販売機には点字が付けられていることなどに多くの生徒が気付いた。さらに、最寄りの駅や各自の家の状況なども出し合った。

そして、2時間目は車椅子体験を行った。5人一組で校内をめぐり、車椅子に乗る生徒と介助する生徒が途中で交代し、その後は一人ずつ車椅子に乗って自分で操作した。スロープのある昇降口から特別教室や体育館、トイレなどへの移動を経験することを通して、障害者用トイレは車椅子で入るには狭く自力での移動が不便であったり、短いスロープでは、昇るときは大変な力が必要になり、降りるときは怖さを感じるといったことに気付く生徒が多かった。障害をもった人とどのように関わっていくべきか様々な考えも出された。

#### 生徒の感想（抜粋）

### 車椅子体験 感じたことや気付いたこと 1年Dルーム

#### 感じたこと 便利！

- ・押してもらわなくても、結構進める。
- ・(介助して) 案外スムーズに動くことにびっくりしました。

#### 感じたこと 不便！！

- ・障害者用トイレで苦勞した。回ってでるとき。
- ・坂道では介助してくれる人がいないと、登りきるのはとても大変で時間がかかりました。
- ・スロープの下りのときに、少し怖かったです。
- ・2段ある段差で介助がないと上がれなかった。
- ・廊下に置いてあったスリッパがすごく邪魔に感じた。
- ・狭い道が通れないのが不便。
- ・曲がり角や部屋などに入るときなど急に曲がらないといけない所で1人で操作するのは大変だと思いました。
- ・振動が直接きていたから乱暴にすると痛かった。
- ・自分で歩いているときよりも目線が低く、でこぼこしたところやゆるい坂など、普段何気なく歩いている所が違う所のように思えた。
- ・今回なら壁に当たりそうになっても、乗っている人が足でガードできたりしたが、足が不自由な人はそれができないと思うので注意が必要。
- ・人に身を任せているので少し不安になる。

### **気づいたこと!!!**

- ・バリアフリーのおかげで1人でも何とかなるんじゃないかと思いました。
- ・障害者は不自由なことも多いけど、一人でできることは手伝わなくてもよい。
- ・障害者の人の中には自分一人ではどうにもできなくて不便なところが多いと思うけど、それを周りの人が手助けすることで問題は上手く解決できるものだった。
- ・障害者だからといって、生活が出来ないわけではなく、健常者と同じように生活ができる。もっとよりよく、障害者の人でも生活できるような学校や町になると良いと思います。
- ・車椅子は少し動くのも大変で1回転するのも一苦勞なのに、世の中の障害者の人たちは車椅子バスケットボールをしたりと、思っている以上にすごいことなんだなと思いました。
- ・実際自分の身の回りに車椅子に乗った人が現れたら、積極的に手伝ってあげようと思った。
- ・障害をもっている人は大変だと思いました。相手が1人で困っているときは必ず助けてあげたいと思いました。
- ・バリアフリー化されていても不便なところがあると思います。
- ・やっぱり学校にエレベーターやスロープをつける必要があると思いました。
- ・障害者用トイレをもっと広くするとか、そうした工夫がもっと必要なんじゃないかと思いました。

これらの生徒の感想を基にして、今後、障害をもつ人や様々な立場の人との関わりについて更に展開したい。

### **ウ 総合的な学習の時間「創造」を通して**

五條高校では姉妹校であるオーストラリアのガートンハイスクールからの短期留学生を1月から受け入れる。オーストラリアについて調べ学習をして、その成果を彼らの前で発表するための準備を進めてきた。グループごとに紙芝居や劇をするための準備をしている。



## エ その他日常の取組を通して

11月になって、週番活動が1年Dルームに回ってきた。週番活動の中で、週のうち1日、クラスの正副委員長と生活委員で朝の挨拶運動を行うのだが、「できるだけみんな来てください。」という委員長の呼びかけに応じ、クラス全員が朝早くから登校して校門での挨拶を行った。



図2 朝の挨拶

生徒たちが主体的に取り組むということについて、日常の取組で思いつくのは席替えである。2学期半ばからは委員長が担任に「席替えしたいという意見が多いですが、やっていいですか。」と聞きに来るようになった。私が認めると、いつの間にか次の日には席が替わっている。配慮すべき生徒は前に座っているし、仲の良い生徒ばかりが近くに固まるといったこともなかった。

### (7) 2学期末の意識調査の結果

1学期末に比べて、「クラスの中で役に立つことができた。」

表2 「1学期を振り返って」と「2学期を振り返って」の比較

「クラスのみんなから存在を認められている。」と感じる生徒が増えたことが分かる(表2)。自由な記述の中で、「文化委員の仕事頑張った。」「文化祭、体育大会頑張れた！皆が一つになれた！」など文化祭や体育大会といった学校行事を通して自己有用感を感じた生徒が多いことが分かった。「あまりそう思わない」

質問1 私はクラスの中で役に立つことができた。		1学期末	2学期末
④	そう思う	3	5
③	だいたいそう思う	15	21
②	あまりそう思わない	16	11
①	そう思わない	4	0
平均		2.45	2.84
質問2 私はクラスのみんなから存在を認められていると感じる。		1学期末	2学期末
④	そう思う	5	6
③	だいたいそう思う	21	24
②	あまりそう思わない	9	7
①	そう思わない	3	1
平均		2.74	2.92
質問3 1年Dルームで良かった。		1学期末	2学期末
④	そう思う	18	25
③	だいたいそう思う	20	13
②	あまりそう思わない	0	0
①	そう思わない	0	1
平均		3.47	3.59

「そう思わない」と回答した生徒も、「文化祭、体育大会であまり手伝えなかったので、申し訳ないです。」「3学期は貢献したいです。3学期は全員に認められたいです。」「もっと認めてもらえるように頑張りたい。」などと記述しており、自己有用感を高めたいという意識が確実に高まっていると考える。

「1年Dルームで良かった。」という質問に「そう思う」と回答した者も増加している。ただ一人「そう思わない」と回答した生徒(中学校時代にトラブルがあったという生徒)は理由を「授業がうるさいから。」と記述しているが、「Dルームで楽しかったこと、印象に残ったこと」として「文化祭に向けての人形作りが楽しかった。」「Dルームで嫌だったこと、今後の不安」を「特になし。」とも記述している。

もう一人中学校時代に人間関係のトラブルがあったという生徒は、質問1に②と回答して

いるがその理由を「文化祭や体育大会で手伝えなかったので申し訳ないです。」としている。質問2には③と回答し、質問3には④と回答し、その理由を「みんな明るくて楽しいから。」としている。その他の記述では「Dルームで楽しかったこと、印象に残ったこと」として「文化祭と体育大会が楽しかったです。普段の授業なども楽しかったです。」と、「Dルームで嫌だったこと今後の不安」は「特にはないです。」と回答し、懇談をしても毎日の学校生活が楽しいとも話している。五條市外から通学している生徒の中で特に入学時に大きな不安・不満をもっていた生徒は、質問1～3についてそれぞれ③④④と回答し、「1Dだいすきです。」「毎日が楽しかったです。」と書いている。

## 5 研究結果と考察

様々なホームルーム活動や学校行事について、できる限り教員が口を出さずに生徒たちが自ら相談し主体的に進めること、また、ホームルーム活動の中で出された生徒の意見や思いを掲示物やプリントにまとめて返すことを続けてきた。そして、生徒たちは常に自分たちで話し合っ解決するということ、その中で普段は目立たない生徒の声を無視しないという姿勢を身に付けてきた。その結果、生徒たちは、自己有用感を高め、ホームルームを自分の存在が認められる居心地の良い場所と感じてきたと考える。そして、自分がクラスの中で役に立っている、存在を認められていると感じられるようになることで自尊感情が高まってきたと考える。4月当初は、五條市内出身生徒は自分たちで固まり、市外から来た生徒たちがそのことに疎外感を感じるという訴えもあったが、その後そんな声は聞かれなくなり、クラス全体でのまとまりが感じられるようになった。

また、1学期末の時点で進路希望を未定とする生徒が非常に多かったが、2学期末に行った同じ調査では「全く未定」という生徒はおらず、逆に具体的な志望校などをあげる生徒が12人出てきた。今回の取組と相関関係があるかどうかは更に研究が必要であるし、時期的にみて当然の結果かもしれないが、このような学校生活を過ごす中で2年後の進路を少しずつ見通せるようになってきたのかもしれない。

## 6 今後の課題

表3 「五條高校生の悩みに関する調査」より

クラスでの自己有用感をもたせるといことでは一定の成果が見られた。しかし、次のようなことも分かってきた。

	深刻である	どちらかというと深刻である	あまり深刻でない まったく深刻でない
成績に関すること	7	15	17
友人関係に関すること	1	5	33
進路に関すること	4	19	16

校内で生徒の悩みについての把握とその解消のためのサポートのために行った「五條高校生の悩みに関する調査」のうち「次の事柄について、今のあなたの悩みについて、その深刻さを教えてください」という質問の回答の抜粋が表3である。1年Dルームの生徒の多くが成績・進路に関して、悩みをもっており、それを深刻に感じている生徒が相当数いることが分かる。この悩みを解消しなければ自尊感情をさらに高めることは難しいのではないだろうか。入学以来、進路指導についてのホームルームや学年集会が何度かあったが、更に具体的に進路の展望をもたせるクラス独自の取組を工夫していかなければならない。また、学習や進路に対する個別の具体的な指導助言も更に進めていかなければならないであろう。